

はじめに

ハマフエフキ (*Lethrinus choerorhynchus*) はフエフキダイ科に属し、沖縄沿岸の岩礁域や砂地に生息、主として一本釣や底延縄で漁獲されている。沖縄県における昭和46～51年のタイ類の漁獲量は年間 909～1,431t となっており、その中でハマフエフキは2～3割 (181～429t) を占め沿岸における魚種別漁獲では上位にランクされる。また市場では高価格で取り引きが行なわれているため、沖縄県における沿岸漁業の重要魚種の一つとされている。

ハマフエフキの種苗生産に関する研究は昭和51年度から県単事業として開始され、昭和53年度からは初期飼育の段階で種々問題点があり、安定した飼育技術の確立までには至っていない。昭和53年度は親魚の採捕方法と養成、産卵状況、ふ化についてそれぞれの関連試験を行ない、仔稚魚飼育についても飼育方法や飼育水、および餌料についての試験検討を行なった。

今年度は前年度までの結果をふまえて、仔稚魚の歩留り向上のための飼育試験を行なう予定であったが順調に採卵することができず仔稚魚飼育に関する予定どおりの試験を実施することができなかった。ハマフエフキの卵内発生と仔稚魚の形態変化およびフエフキダイ類飼育中における原虫寄生の予防方法に関する試験を行なったのでここに報告する。

I 親魚採捕と養成

昭和53年度の試験に用いた親魚群は前年度の報告書に述べたように昭和53年4月15日に全尾数斃死したのであらたに親魚を確保養成し、自然産卵による採卵を検討することとした。

1. 材料と方法

親魚採捕は前年度同様、底延縄により川平湾内で行なった。採捕したハマフエフキ成魚は0.9t コンクリート水槽で薬浴し、一定期間飼育後60t 大型水槽へ移し、冷凍イカや雑魚を投与して親魚養成を行なった。

表-1. 延縄による採捕状況 (4月～7月)

採捕年月日	尾叉長 (cm)	体 重 (g)	採捕漁具	採捕場所	備 考
昭和53年					昭和53年
4月28日	42.0	1,230	底延縄	川平湾	7月22日斃死
5月4日	43.0	1,320	"	"	"
5月13日	41.0	1,215	"	"	"
"	40.0	1,190	"	"	"
5月16日	38.0	1,050	"	"	"
5月27日	33.0	710	"	"	"
5月30日	34.0	735	"	"	"
6月1日	43.5	1,350	"	"	"
"	39.0	1,010	"	"	"
6月2日	45.5	1,650	"	"	"
6月18日	37.5	950	"	"	"
6月19日	39.5	1,100	"	"	"
7月9日	39.0	1,090	"	"	"